

東日本大震災5周年シンポジウム
IRIDeSのこれまでの歩みと未来に向けて

IRIDeSの今後の展開
～国連防災世界会議ほか～

東北大学 災害科学国際研究所
丸谷 浩明
(東北大研究教育評議会評議員)

1.1 国連防災世界会議の歴史

第1回国連防災世界会議

- 1994年5月23日～27日、横浜で、開催。
- 1994年5月23日～27日、横浜市
- 「より安全な世界に向けての横浜戦略」を採択

第2回国連防災世界会議

- 2005年1月18日～22日、
兵庫県神戸市
- 168国連加盟国、国際機関、
NGO等約4千人が参加
- 「兵庫行動枠組 2005-2015」
を採択

2.1 第3回 国連防災世界会議(1)

日程:2015年3月14日(土)~18日(水)

会場:仙台国際センター

開催結果概要:

(1)本件会議には、187の国連加盟国が参加し、6,500人以上が参加し、関連事業を含めると国内外から延べ15万人以上が参加し、日本で開催された史上最大級の国連関係の国際会議となった(参加国数では過去最大)。防災に対する国際社会の政治的なコミットメントを得て、防災の主流化を進める上で、大きな成果となった

2.2 第3回 国連防災世界会議(2)

- (2) 仙台防災枠組2015-2030及び仙台宣言がコンセンサスで採択され、防災の新しい国際的指針の中に、防災投資の重要性、多様なステークホルダーの関与、「より良い復興(Build Back Better)」など日本から提案した考え方が取り入れられた。また、2015年開発アジェンダに防災の視点を盛り込むことの必要性が確認された。
- (3) 安倍総理大臣から、日本の貢献策として「仙台防災協力イニシアティブ」を発表し、防災に関する日本の進んだ知見・技術を活用して、国際社会に一層貢献していく姿勢を示した。潘基文国連事務総長が、記者会見において、「日本の支援は他の先進国の模範となる」と述べるなど、高く評価された。
- (4) 被災地・仙台で開催され、周辺自治体の協力も得ることで、東日本大震災からの復興を発信する機会となった。

(出典: 仙台市ホームページの記述を要約)

2.3 IRIDeSの国連防災世界会議への取組

- 第3回国連防災世界会議の仙台開催に向けた仙台市と二人三脚で誘致を支援
- 『兵庫行動枠組(HFA)』の取組みを分析したレビューの発行
- 東北大学は、会場としてキャンパスを提供
- 開催時はパブリックフォーラムなどを主催・共催
- 採択される国際防災枠組に、具体的な目標を組み込むことを働きかけ

2.4 IRIDeS による第3回国連防災世界会議関連活動 パブリックフォーラムとして42のイベントを開催

- 1.レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して(桜井愛子) 主催
- 2.産学連携による最新のVirtual Reality 技術を活用した震災3Dアーカイブと防災教育(柴山明寛) 共催
- 3.東日本大震災の災害ボランティア活動を振り返る(丸谷浩明) 後援、参加
- 4.災害ロボットの社会実装(田所諭) 共同主催
- 5.震災時のがん医療(伊藤潔) 協力、参加
- 6.東南アジアにおける近年の大規模水災害から得られた教訓～命をいかに守るか～(呉修一) 主催
- 7.東日本大震災の被災地域でのグローバル安全学リーダー人材の育成(地引泰人) 共催
- 8.住民主体の災害復興と大学の役割—東日本大震災の教訓と神戸・アチェ・四川との比較(桜井愛子) 共催
- 9.日本の災害への強さ—世界とその秘訣と挑戦に迫る—(今村文彦) 共催
- 10.シミュレーション・センシング・G空間情報の融合による減災力の強化(越村俊一) 主催
- 11.東北大学復興シンポジウム 東北大学からのメッセージ(今村文彦、奥村誠) 本部に参画
- 12.災害時における支援調整の仕組みを考える(丸谷浩明) 参加
- 13.ジオハザード軽減に向けた地球科学の人材育成: 防災国際ネットワーク構築(後藤和久) 主催
- 14.MORE (Resilience) for LESS (Risk): DRR Matters・上級パネルディスカッション(服部俊夫、江川新一、サッパシーアナワット、保田真理) 参加
- 15.平成26年度防災とボランティアのつどい(丸谷浩明) 後援、参加
- 16.気候変動による大規模自然災害～ビッグデータの活用によるリスクコミュニケーションへの展開～(イケリーン J.) 主催
- 17.台風・高潮・高波シミュレーション及びインフラ被害評価(ブリッカー ジェレミー) 主催
- 18.WMOマルチハザード早期警報システムとサービス提供に係る国際シンポジウム(奥村誠、小野裕一、呉修一) 後援、協力
- 19.レジリエント・コミュニティ — 私達の住まい, 私達の地域, 私達の復興—(村尾修) 主催

- 20.災害科学国際研究所地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門ー津波リスク研究と防災啓発活動(福谷陽)主催
- 21.巨大災害におけるメンタルヘルスのしなやかさにむけた復興のありかた(富田博秋、江川新一)共催
- 22.レジリエンス・ワークショップ～しなやかな防災・減災を実現する科学技術と社会実装～(寺田賢二郎、奥村誠)主催
- 23.「重層的な津波避難対策の展開」シンポジウム(安倍祥)主催
- 24.巨大災害からの復興～人、コミュニティと計画～(井内加奈子、マリリス)主催
- 25.企業と市民参加によるコミュニティ・レジリエンス構築(泉貴子)主催
- 26.巨大災害に対する保健医療の備え(江川新一、服部俊夫、浩日勒)主催
- 27.日本の事業継続マネジメントの現状と今後～東日本大震災も踏まえて～(丸谷浩明)共催
- 28.風関連災害低減のための大規模施設の必要性と有効性(小野裕一)後援、参加
- 29.東北地域における産業・社会の復興(増田聡)共催
- 30.東日本大震災からの多重防御によるまちづくり共
- 31.東日本大震災 総合フォーラム 持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開～より良い子どもたちの未来に向けて～(今村文彦)共催
- 32.ESCAP/WMO 台風委員会セミナー(小野裕一)参加
- 33.災害教訓の伝承～アーカイブとメモリアルの役割とは～(柴山明寛・ボレー セバスチャン)主催
- 34.人々の健康を災害リスクから守る(江川新一)参加
- 35.第2回アジア太平洋地域における国連災害統計専門家会議(小野裕一)参加
- 36.東北内外の連携・相互協力による災害対応力強化に向けて(丸谷浩明)後援、参加
- 37.科学と実践的防災学～防災における大学の役割とは～(泉貴子)主催
- 38.被災地でのジオパークを考える～大地の災いと恵み～(久利美和、佐藤翔輔)主催
- 39.巨大化する自然災害に備える技術者の役割(サツパシー アナワット)参加
- 40.『生きる力』市民運動化プロジェクト推進のためのシンポジウム(今村文彦、佐藤翔輔)主催
- 41.災害とヒューマンセキュリティ(服部俊夫)参加
- 42.平成26年度防災シンポジウム・第10回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム「災害に強いコミュニティを目指して」(佐藤健)共催

3.1 仙台防災枠組 2015-2030の構成

期待される成果 (Expected outcome)

人命・暮らし・健康と、個人・企業・コミュニティ・国の経済的・物理的・社会的・文化的・環境的資産に対する災害リスク及び損失を大幅に削減する

目標 (Goal)

ハザードへの暴露と災害に対する脆弱性を予防・削減し、応急対応及び復旧への備えを強化し、もって強靭性を強化する、統合されかつ包摂的な、経済的・構造的・法律的・社会的・健康的・文化的・教育的・環境的・技術的・政治的・制度的な施策を通じて、新たな災害リスクを防止し、既存の災害リスクを削減する

グローバルターゲット (Global Targets)

- ①死亡者数
- ②被災者数
- ③直接経済損失
- ④医療・教育施設被害
- ⑤国家・地方戦略
- ⑥開発途上国への支援
- ⑦早期警戒情報アクセス

優先行動 (Priorities for action)

各行動は、国・地方レベル、グローバル・地域レベルに焦点を当てる

優先行動 1

災害リスクの理解

優先行動 2

災害リスク管理のための災害
リスク・ガバナンスの強化

優先行動 3

強靭性のための災害リスク
削減のための投資

優先行動 4

効果的な応急対応に向けた備え
の強化と、より良い復興（ビルド・バック・ベター）の実施

ステークホルダーの役割 (Role of stakeholders)

市民社会、ボランティア、コミュニティ団体の参加
(特に、女性、子供・若者、障害者、高齢者)

学術機関、科学研究
機関との連携

企業、専門家団体、民間金
融機関、慈善団体との連携

メディアによる広報・普及

国際協力とグローバルパートナーシップ (International cooperation and global partnership)

一般的考慮事項 (国際協力の際の留意事項)

実施方法

国際機関からの支援

フォローアップ行動

3.2 仙台防災枠組 2015-2030(骨子)

II. 期待される成果と目標

- 今後 15 年の期待される成果として、「人命・暮らし・健康と、個人・企業・コミュニティ・国の経済的, 物理的, 社会的, 文化的, 環境的資産に対する災害リスク及び損失の大幅な削減」を目指す。
- 上記成果を達成するため、「ハザードへの暴露(exposure)及び脆弱性を予防・削減し, 応急対応及び復旧への備え強化し, 強靱性を強化する, 統合されかつ包摂的な, 経済, ハード及びソフト, 法律, 社会, 健康, 文化, 教育, 環境, 技術, 政治及び制度的手段の実施を通じ, 新たな災害リスクを予防し, 既存の災害リスクを減少させる」とのゴール(goal)を追求する。
- ターゲット(target): ①死亡者数, ②被災者数, ③経済的損失, ④重要インフラの損害, ⑤防災戦略採用国数, ⑥国際協力, ⑦早期警戒及び災害リスク情報へのアクセス

3.3 仙台防災枠組 2015-2030(骨子)続

Ⅲ. 指導原則(抜粋)

- 各国は防災の一義的な責任を持つ。
- 国の事情に応じ、中央政府、関連機関、各セクター、ステークホルダー間で責任を共有。
- 人とその資産、健康、暮らし、生産的資産の保護、開発への権利を含む人権の尊重。
- 社会全体の関与と連携。女性と若者のリーダーシップ促進。
- 事前の防災投資は災害後の対応・復旧より費用対効果が高い。
- 「より良い復興(Build Back Better)」による災害後の復旧・復興。
- 途上国には財政支援、技術移転、能力構築を通じた支援が必要。

3.4 仙台防災枠組 2015-2030(骨子)続

IV. 優先行動

- 優先事項1: 災害リスクの理解

- ☆ 関連データの収集・分析・管理・活用

- ☆ 災害が複合的に発生する可能性を含めた災害リスク評価

- ☆ 地理空間情報の活用, 防災教育, 普及啓発, サプライチェーン

- 優先事項2: 災害リスク管理のための災害リスクガバナンス

- ☆ 全てのセクターにわたる防災の主流化, 防災戦略計画の採択

- ☆ 関係ステークホルダーとの政府の調整の場, ステークホルダーへの責任と権限の付与

- 優先事項3: 強靱化に向けた防災への投資

- ☆ ハード・ソフト対策を通じた防災への官民投資

- ☆ 土地利用, 建築基準

- 優先事項4: 効果的な応急対応に向けた準備の強化と「より良い復興(Build Back Better)」

- ☆ 災害予警報, 事業継続, 避難場所・食糧・資機材の確保, 避難訓練

- ☆ 復旧・復興段階における基準類, 土地利用計画の改善を含めた災害予防策

- ☆ 国際復興プラットフォーム(IRP)などの国際メカニズム強化

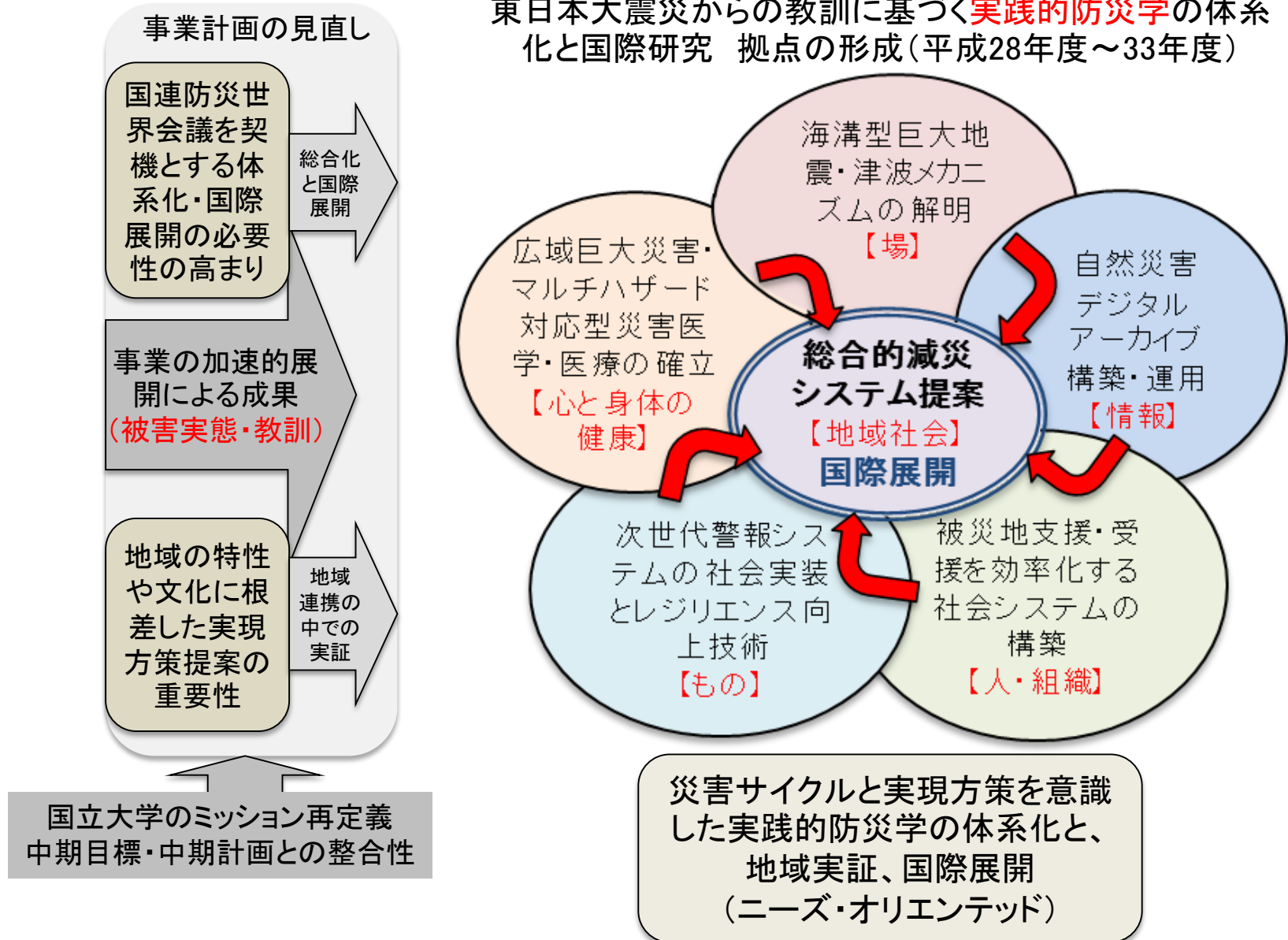
3.5 仙台防災枠組 2015-2030(骨子)続

V.ステークホルダー(防災関係者)の役割

- 市民社会, ボランティア, 慈善組織, 地域団体等の参加
 - 女性とその参加, 女性の能力構築
 - 子どもと若者
 - 障害者とその組織
 - 高齢者の知識
 - 先住民の経験及び伝統的知見
- 学術界及び科学研究機関との連携(リスク要因・シナリオ分析, 政策決定者との連携)
- 企業, 業界団体, 民間金融機関との連携(災害リスク管理の事業継続計画等ビジネスモデルへの統合, 研究革新)
- メディアによる広報・普及

4.1 当研究所の今後 実践的防災学の体系化と地域実証・国際展開

東日本大震災からの教訓に基づく**実践的防災学**の体系化と国際研究 拠点の形成(平成28年度～33年度)



4.2 国連防災世界会議も踏まえた当研究所の役割とは

- ◆ 仙台防災枠組に名前を冠した仙台の総合大学として、行政その他の主体と連携して、東日本大震災の教訓の情報発信と防災教育への活用の役割を担うべき
 - 情報発信や教育を担う現地組織(神戸の人と防災未来センターのような機関)が設立されていないことも考慮
- ◆ 今後15年間の国際的な防災の取組指針となる仙台防災枠組の各重要事項を推進する担い手として、所内各研究者が他組織とも連携して、積極的な役割を果たすべき
- ◆ 「仙台防災協カイニシアティブ」で首相が発表した「防災に関する日本の進んだ知見・技術を活用して、国際社会に一層貢献していく姿勢」を当研究所も担うべき
- ◆ 当研究所がめざす「実践的防災学の体系化と地域実証・国際展開」を行うことで、国内・国外の大災害対応や、近い将来の大災害への備えが必要な地域への貢献を行うべき

東日本大震災5周年シンポジウム IRIDeSのこれまでの歩みと未来に向けて



ありがとうございました